



協会ニュース

第22号

平成18年1月27日発行

編集発行人/服部 桂 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町15-17 (日本基礎技術株式会社内) TEL (03) 3476-5721 FAX (03) 5489-7821
 [ホームページURL] <http://www7.ocn.ne.jp/~rta/>

年頭にあたって

岩盤削孔技術協会会長

三谷 健



明けましておめでとうございます。

当協会が大口径岩盤削孔研究会として発足したのは、平成元年11月でした。その後、名称を岩盤削孔技術協会と変え、研究会が発足した平成元年から数えて、今年には18周年になります。その間、厳しい経済状況下にあっても、会員皆様のご努力によって当協会も着々と実績をあげております。ひとえに会員皆様の協力のおかげと感謝いたしております。

本年、国は"激化する国際競争への対応"および"国民生活水準の維持・向上"を目的として、重点的に経済発展の基礎になる社会資本の整備—港湾・空港・道路・鉄道—を進めるとしてあります。

さらに地震・風水害などの大規模自然災害に対し、再発防止の観点から"防災・減災等による安全社会の確立"を重視するとしてあります。

土木分野の技術は重要な位置にあり、国民の期待は非常に大きいものがあります。

本年以降の日本経済の見通しは"踊り場脱却から回復"に向けた動きを続けると予想されています。

ここで一番踏ん張って、この困難を乗り切れば、必ずや明るい未来の光が見えてくるはずですよ。

協会もできるだけ経費を切りつめて、会員皆さんと協力して、地道ではありますが、実のある仕事に集中していくつもりです。

積算資料の提供については、(社)日本建設機械化協会殿における国土交通省・関係機関および関係業界の方々による「大口径岩盤削孔技術委員会」で、オーガ掘削工法・ケーシング回転掘削工法・ロータリー掘削工法・パーカッション掘削工法の4工法について、(社)日本建設機械化協会殿により「大口径岩盤削孔工法の積算」を発刊していただいております。

岩盤分類の研究については、現在の岩盤削孔のための岩盤分類は、主に1軸圧縮強度を指標としておりますが、硬岩と判定される岩盤の領域が非常に広く、所定の掘削時間で掘削できない場合が多々あります。

このような状況に鑑み、学識経験者および発注官庁の専門の方々による「削孔を対象とした岩盤分類検討委員会」(委員長・西松裕一東大名誉教授)で統一された岩盤分類について検討を行い、「削孔を対象とした岩盤分類報告書」のとりまとめを行い、発刊いたしました。

大口径岩盤削孔工法・施工機械技術資料の発刊については、オーガ掘削工法、ロータリー掘削工法、パーカッション掘削工法、ケーシング回転掘削工法の概要、掘削工法・機械一覧の技術資料のとりまとめを行い、平成18年度版を発刊いたします。

リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料の作成については、適用範囲、工法の概要、リーダ式ケーシング回転掘削工法の標準積算、参考資料を日歩掛り方式でとりまとめを行い、発刊いたします。

岩盤削孔技術協会カタログについては、大口径岩盤削孔工法、工法分類と適用地質(オーガ掘削、ロータリー掘削、パーカッション掘削、ケーシング回転掘削)、施工実績のとりまとめを行い、発刊いたしました。

会員施工会社施工実績調査表(平成16.4~平成17.3)についてはオーガ掘削工法、ロータリー掘削工法、パーカッション掘削工法、ケーシング回転掘削工法の施工実績と分析を行って発刊いたしました。

岩盤削孔技術協会工法紹介ビデオについては、より多くの技術者に削孔技術の正しい知識を習得していただくため、大地の特性、岩盤と削孔特性、様々な削孔技術、これからの土木を内容としたビデオ(岩盤を掘る19分)の制作を行い、発刊いたしました。

岩盤削孔技術協会ホームページについては、協会の情報および会員会社の情報を、国内はもとより海外にも提供しております。また協会のホームページリンクによって、会員会社のホームページを瞬時に参照することもできます。アクロパットリーダーの利用により、協会ニュースなどの多量の情報を得ることもできます。

社会環境の厳しい中であって、協会は堅実に力強く一步一步歩んでいます。今年こそは、みんなで良い年にしましょう。

委員会活動報告

1. 運営委員会 2回(継続)

平成17年8月25日~平成17年12月1日

- ・リーダ式ケーシング回転掘削工法の審議
- ・協会ニュースの審議

- ・ホームページの審議
- ・大口径岩盤削孔工法の積算資料の審議
- ・工法・施工機械技術資料の審議
- ・総会の日程審議
- ・予算の審議
- ・旅費支給の審議